

円高・円安を学ぶ

静岡県浜松市立天竜中学校 若原昌史

本単元の意義

2008年、アメリカ合衆国のリーマンブラザーズの倒産の影響を受け、多くの国から金融危機というニュースが伝わってきている。世界各国で株価の暴落も起こった。私が住む浜松でも自動車の大手メーカーが工場の生産を止めたり、多くの派遣社員を解雇したりした(2009年1月)。しかし、生徒の多くは、2008年9月の時点でこうなることを予想していなかった。生徒は、中学校2年時に学習した世界恐慌の様子を思い出しているであろう。アメリカの証券会社1社の破綻が、世界の経済の影響を左右する。つまり、最近の経済は、モノ、ソフトだけでなく、お金もボーダーレスになってきているのである。

2008年9月以降さらに、円高が進み、2008年12月の時点で円が1ドル=90円台になることの意味を生徒は重く受け止めることができなかった。生徒が学んだことの理解ができて



「中学生の公民 初訂版」p.60②空港の為替レート掲示板

いなかったと同時に、私が知識重視の授業を展開したためだと反省し、この単元を重く扱うこととした。ちなみに生徒の多くは円高・円安の意味で最初からつまづく場合が多い。

2 授業改善の方向性

教科書の流れでいくと、経済の学習後に“深めよう”のコーナーで円高・円安について学習すると、生徒にとって、内容がとてもイメージしやすくなる。とくに、個人のレベルで考える円高・円安ではなく、企業の活動はどうなるかということを考えさせたい。円高・円安の説明は、生徒自身がイメージしにくいいため、簡単な例を準備し説明することが望ましい。ここでは、円高・円安の際、人々はどのような行動をするのかを考えさせたい。

近年、考えさせる授業を展開することを私は理想としている。参加型の授業形式である。ともすると、公民の授業はキーワードを大切にし、知識重視の授業にどうしてもなりがちで、本来の生きるための教育の意味を忘れてちになってしまう傾向があると考えたためである。また、生徒は自分の意見を主張できないという傾向もある。とくに、話し合いの授業形式にした際、だれか級友が発表すると、それに賛同はできるが、意見を出すことができないのである。グループで共同の発表という形も要注意である。とくに、能力がある生

徒がグループにいる場合、そのグループはその生徒にたより、自分自身の意見も出さないという傾向があるからである。ただし、参加型の授業は、考える力や自分の意見を主張する能力は養えても、知識の定着はなかなか図れないというのが問題であり、今後バランスのよい授業を展開することが課題でもある。

3 基礎・基本を習得させる授業プラン

①おもな外国の通貨単位を確認させる。

- ・ドル、ユーロ、ポンド、ウォン、元、ドン等。
- ・ワールドカップの参加国、オリンピックのメダル獲得数ランキング10の国などを用い、通貨単位を調べさせてもよいであろう。
- ・時間があれば、ここで、地理の復習ということで、ユーロの特徴を考えさせてもよい。



「中学生の公民 初訂版」p.60

②為替レートについて

教科書にも、右のように為替レートが記載されているが、最新のものを新聞等で準備させ、教科書と比較し、関心を高めたい。そして、新聞と教科書との違いに対し、その現象を何というかを確認し、授業後に再度問いかける。

外貨	→	円
1アメリカドル	→	122.98円
1ユーロ	→	165.47円
1イギリスポンド	→	245.86円
1韓国ウォン	→	0.13円
1中国元	→	16.16円
1ベトナムドン	→	0.008円
1クウェートディナール	→	426.85円

▲③為替レート(2007年6月)



「中学生の公民 初訂版」p.61

③為替レートの説明を行う。

日本の為替相場の歴史を簡単に説明しておきたい。以前は、固定相場制であったことを生徒に理解させ、なぜ、1973年以降変動相場制にしたのかを考えさせたい。

生徒には、基本的な考えを身につけさせたい。ドルなどの通貨の売り買いによって、円やドルの価格は変動する。ドルを売り円を買う人が多くなると円が高くなりドルが安くなるという市場の価格の変化と同じ原理であることを理解させたい。

④p.27のワークシートを利用して、円高のときに、得をする人、損をする人を考えよう。

- ・黒板に次の文を掲示をし、下記の人たちがどういう気持ちになるか記入させる。

円高

- 1ドル=120円が1ドル=80円になりました
- ・生徒がそれぞれ下の3人のどれかの役割を分担し、その設定された人の気持ちを書こう。
- ・教室の中を自由に行き来し、インタビューしあい、その場で意見をまとめる。

海外への旅行者

- ・現地で使えるドルが増える。
- ・いろいろな物が買える。

輸出業者

- ・現地生産。
- ・値段が上がり、売れなくなる。
- ・現地の価格そのままですると利益が少なくなる。

輸入業者

- ・安く輸入できて、安い値段で売れる。
- ・多く仕入れることができる。

○円高が終わったら、円安についても同様の作業を行わせてもよい。

⑤時間があれば、企業の円高・円安の際の取り組み・回避の方法などを話し合ってもよい。

例；円高に対して

海外への旅行者

- ・ドルを多めに購入しておく。
- ・さらに円高が進むのを待つ。

輸出業者

- ・円安になるまで生産を一時ストップする。
- ・海外の業者と販売価格を見直す話し合いをする。

輸入業者

- ・普段より多めの仕入れを行う。

⑥最後に下の図を使った確認を行う。()
に言葉を入れて確認をする。

例；円高の時、輸入は ()

円安の時、輸入は ()

※有利か不利かを入れる。



「中学生の公民 初訂版」p.61

4 評価方法

【評価方法】

- ①インタビューの際、3人以上の生徒と情報を交換できたか。(関心・意欲・態度)
- ②円高・円安の際、だれが得をし、損をす

るかを考えてワークシートに自分の意見を書くことができたか。(思考・判断)

- ③円高・円安の際、企業はどのような動きをするかワークシートに自分の意見を書くことができたか。(思考・判断)

5 おわりに

今後、外国旅行、インターネットでの海外の業者とのやりとりなどを、生徒は経験するであろう。円高・円安と聞くと生徒は難しそうな顔をするが、理解しておいたほうが、よりよく生きることが可能になるということを理解させたい。また、円高がニュースなどのメディアを通じて報道されたときに、様々な変化に対して自分の意見を持てるようにしたい。円高・円安といった現象が生じることによって、企業はどのような活動をするようになるのか、日本の物価はどのように変化するかを考えて、意見を持てるようにしていくのが教員としての課題であろう。

参加型の授業を形成する際に注意しなくてはならないのは、教師の自己満足で終わっていないかという点である。とかくこういった授業を展開する際、生徒は通常の授業よりも授業への参加意識は高い。しかし、定期テストで明確になるのが、理解という点である。知識の定着・基本の理解とバランスを考えて授業計画していくことが今後の課題となっていくだろう。

このような活動を通して、生徒は、思考・判断の評価に対する問題の中で、何かを書こうとする姿勢が見られるようになり、授業後には外貨預金について質問してくる生徒もいた。こちらが授業でのバックグラウンドを整備した結果は得られた。

授業用ワークシート

課題

円高・円安により、得・損をする人はどんな人か？

円高 1ドル=120円が1ドル=80円になりました

	どういふ変化があるか	
海外への旅行者 10万円の小遣いを持っていく。	自分	
	級友	
輸出業者（自動車を売る人） 200万円の車を売る。	自分	
	級友	
輸入業者（自動車を買う人） 200万円でいくらの車を買うか。	自分	
	級友	

下記の人物は何をして回避するか？

対象者	行 動	
海外への旅行者	自分	
	級友	
輸出業者	自分	
	級友	
輸入業者	自分	
	級友	

○最後に確認してみよう！

※有利か不利かを入れる。

円高のとき、輸入は（ ）

円安のとき、輸入は（ ）